勿来工業高等学校建築科OB会 事務局だより

発行所
いわき市石森二丁目1番地の13
発行者
勿来工業高等学校
建築科OB会
会長 嵐 繁雄
TEL 0246(35)0631（事務局）
http://www.na‾kenob.com/

第十二回総会開催

平成十六年六月二十六日（土）いわきワシントンホテルにおいて、勿来工業高等学校建築科OB会第十二回総会が開催されました。

司会者に四家康生（二十一回生）さんがつき、議長に峯村康三（十二回生）さんが選任され、議事に入りました。

議案一号に平成十五年度事業報告並びに同収支決算報告に関する件及び会計監査報告があり可決。

また議案二号に平成十六年度事業計画（案）、議案三号に同年事業計画（案）が提示され承認されました。

他、今回の総会において「いわき支部」が正式に発足した事が報告されました。

今後、東京支部同様いわき支部の活動に期待されます。

OB会ホームページの活用

OB会会長 嵐 繁雄

六月二十六日に第十二回総会が開催され、総会に於いて、二月八日に当OB会のホームページが、母校勿来工業高校のホームページより先にアップロードしたことが報告されました。

OB会もインターネット界にデビューしました。今後どのように活用していくべきか、執行部会において検討しているところです。

また、建築科OB会から学校側に勿来工業高校のホームページの開設を要望していたところ、稲垣校長のご理解と迅速な対応により、六月三十日にアップロードし利用されているところです。相互のホームページからもリンク可能となっており、十一月十六日現在の利用者は、学校が三四一四名、OB会が七七七名です。

OB会のホームページの管理運営は、事務局長の千葉君が担当しております。随時新情報が掲載され、常に開いて見ていないと情報が得られないようになりつつあります。

内容としては、OB会活動状況、在校生の設計コンペの状況、総会内容、支部活動状況等々ですが、中でも支部活動では、ホームページ上で活動に対する募集等も行っております。例えば支部で何か行事を行う場合、一〇〇〇名を対象にはがき通知することになり、一回の行事で最低一〇万円以上の経費がかかり、行事を開催することが不可能でしたが、ホームページの活用により可能となりました。

また、支部活動の中に冠婚葬祭のお知らせ等をのせることも可能で、会員間の最新ニュースにもなり、クラス会の案内など様々な活用の仕方が考えられることと思います。今後、ホームページの利用が活発になり、益々、利用価値が上がっていくことと思います。

事務局だよりの発行は年一回ですが、ホームページでは、随時最新情報が格安な経費で配信され、利用方法は無限に広がっていきます。

更に、ホームページを利用し、OB会会員の企業及び賛同する企業にPRの場を提供し、多少の会費を頂き、頂いた会費は建築科OB会の運営に役立てるなどの方向で検討していきたいと思っています。

また、プライバシーなど個人情報には最善の方法を考慮して参ります。

会員の皆様には、OB会ホームページの活用方法に御意見が有りましたら、是非事務局までお寄せ頂き、参考にさせて頂きたいと思います。ご協力をお願い致します。

講演会開催と懇親会

総会終了後、今年度の事業である講演会が開催されました。

今回の講演者は、地元湯本高校で教員をされていて彫刻家として活動している安斉重夫先生です。先生は大学に在学中から現在に至る三十数年間に、いわき市内は勿論、仙台や銀座で数多くの個展を開いております。特に昭和五十七年に彫刻家村上勝美氏に出合ってからの鉄を素材とした彫刻を始める様になった事等、先生の芸の精神を熱っぽく語られ、我々建築にたずさわっている会員の多くに感銘を与えてくれました。安斉先生の今後の活動を期待します。

会場を同じくして楽しみにしていた懇親会です。嵐会長と校長先生（茂木教頭先生）の挨拶があり、富樫先生の乾杯で始まりました。今回は東京支部より鈴木公男さん（二回生）と佐川旭さん（七回生）も出席され、鈴木さんは新品川駅舎の現場所長として活躍され、製作ビデオを持ち込んで紹介してくれました。また、佐川さんは、岩手県紫波町での街づくりに取り組んで来た作品集を出席された会員に贈られ、建築にたずさわる心意気を語ってくれました。

おいしい料理を食べながら囲むテーブルも時間がたつにつれて、年に一度の交流の場も最高潮になり、コップ片手に話しもつきず、なごやかな雰囲気の中でお開きとなり、多くは街のネオンに引かれてゆきました。

いわき支部発足

OB会いわき支部長 土田 利夫（八回生）

本会の性質上、いわきに本部があり実質的活動、幹事会、執行部会共、いわき市内の会員が参加することで成り立っている現状の中、市内在住の一般会員が気軽に参加するイベント等の開催は、皆無である。

そうした声もちらほら聴こえる様になり第十二回総会において正式に『いわき支部』を発足する事が承認されました。

いわき支部を発足することは、尚一層地元の会員同志が交流できる機会を増やしていくことで、OB会全体の活性化の礎となり、又、若年層の底上げにつながる価値のある大切な支部結成と思います。

約一〇〇〇人の会員を有する支部において、実質活動をする為には、色々な困難（通信手段等）があると思いますが、現在、幸いにもOB会の『ホームページ』がアップロードし、この媒体を中心にフル活用をして、この難関を乗り越えられそうです。又、地元会員同志のネットワーク（クラス会等）を活用しながら、地元に密着したタイムリーな情報ならびに活動を会員の皆さんに、公示したいと思っております。

景気動向をいまだに全く出口がみつからず迷走している現在、我々を取りまく環境は今後共、不安定としかうつりません。だからこそ『勿工建築科OB会』ならではの、社会参加型活動を率先して行える支部に育って、もっと地元に根づく事を期待するものであります。

その為にも、支部長として、多様な企画を積極的に発信して行かなければならないと感じております。

私一人では、到底力不足の感があり、地元会員の皆様のバックアップの程よろしくお願い申し上げます。支部長に就任したあいさつとさせていただきます。

近況報告

東京支部事務局 佐川 旭

昨今の建築業界は大きな転換期を迎えている。それは、社会が成長期から成熟期に入ったことを意味する。成熟した社会とは価値観の多様化と選択肢の多さである。これに環境という視点を合わせて建物をつくっていかなければならない。

支部活動の集会にもこういった話題が中心となり、議論することがある。建築は工期というついつい目の前の仕事をこなすだけに走りがちであるが、大きな視点で社会を捉えることも大事なことである。その点でOB会の集まりは、会社を離れて自由に話せることができるよい場なのではないだろうか。年に一〜二回、そこでの仕事ぶりをみると新たなエネルギーをもらうこともある。

いつの時代も人との出会いは筋書きのないドラマなのであります。

今年次、三冊の本を出版しました。読んでいただければ幸いです。

1、2004年6月
エコハウスの設計（共著）
オーム社

2、2004年6月
地域力をつくる建築
建築ジャーナル

3、2004年11月
一戸建てはこうしてつくりなさい
ダイヤモンド社

東京支部だより

東京支部会員の活動

佐川 旭（七回生）

昨年（二〇〇三年）三月に竣工した岩手県紫波町立上平沢小学校が文科省の「うるおいのある教育施設賞」と木材活用コンクールでグランプリをいただきました。これは地元の木を使って地元の大工さんが建てました。一年で全国から一八〇自治体の視察を受け、その反響に驚いております。

その関係で文科省より、二〇〇四年秋に講演を依頼されました。聴講者は全国の県・市の教育委員会に勤務する職員です。そこになんと高校の同級生が来ており、終了後、久しぶりに懐かしい話に花が咲きました。

社会が豊かになるにつれ、どういうわけか物との関係性、人との関係性が細かく切られてしまいました。友人との語らいは時の関係性を感じさせ、ネットワークの大事さを認識させてくれました。

勿来工業OB会設計塾開講

いわき支部活動　千葉 良司（十回生）

おめでとう坂本明央君、初参加、初入選、そして設計塾初開講、道都大学（北海道）美術学部建築学科が主催する第一回高校生住宅設計コンクール。このような、公募があるので手伝っていただけないかという長谷沼科長からお話を頂き、土田支部長の呼びかけに八名の協力者が集まり設計塾の開講が実現しました。生徒の参加者は、三年三名、二年五名、一年六名の合計十四名でスタートしました。一回目は、同窓会館で行われ、参加スタッフ八名中六名が出席し、それぞれがコンペに対する考え方や進め方を発表し次回に向けて課題を出しその日を終えました。二回目からは、担当を毎回二人に決めての計画でしたが学年毎に担当を決め指導に当たって見るとスタッフ不足を痛感しながら三時間をあっという間に費やしました。次回より多目に人員を確保し毎回四、五名のスタッフの参加で望みました。全日程九回（五・十五〜七・二十四）三ヵ月にわたり指導に携わったわけですが、殆どの時間を平面計画に費やし難しさを実感していた様です。三年生は同時にJWCADをマスターしながらの作業でしたが、高原さんがプランとCADを上手く指導して完成に向けて力を注いでいたようです。最終的に完成したのは、三年生三名（CAD）二年生二名（手書き）の五点の出展でした。全国から九十一作品の応募があり入賞は十七点（全てHPで見られます。）でその中に勿工生の名前を出すことが出きた訳です。表彰式では、建築科の二、三年生を製図室に集めて行われ校長先生よりお祝いのお言葉をいただきました。校長先生、教員、OB会員スタッフ一同は共通した喜びを味わったに違いありません。設計塾一年目の我々スタッフは指導に対する課題を多く残しながら、また来年もやるという気持ちを学校側に伝えました。参加者は、酒井（五）、嵐（六）、福富（七）、土田（八）、佐藤敏（十二）、高原（十四）、鈴木忍（十八）、敬称略〇内は卒業回生です。

尚OB会HPの支部情報のいわき支部の中に記事と塾の様子と大学のHPのリンクを掲載しております。生徒皆、明るく積極的に取り組んでいる様子を見ることができます。私は、事務局担当という立場も含めて毎回、塾の様子を写真に収めてHPに公開してきました。

支部の活動報告

いわき支部副会長 志賀 利光（七回生）

十月三十日、四時川ロッジ（宿泊）で今回支部のコミュニケーションの場として、今日までOB会の活動には無かった、泊まり込みで先輩・後輩の枠を越え、お酒の力を借りての懇親の場になりました。

最近の世の中の情勢も、ノミュニケーションを重視する風潮にあるなか、夜遅くまで、議論の場になり、大変有意義な一夜でした。（詳しくは次回の幹事会で）今後は支部の名を借りて宿泊施設に泊まり懇親の場を、年一回位の予定で計画して行きたいと思いますのでよろしくお願い致します。

今回の会場は四時川ロッジに現地集合・現地解散で行いました。昼の部も今後は里の山の散策とかを計画します。御支援をお願い致します。